

「秋田大学みらい創造基金学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日：2018年5月16日

所属：教育文化 学部／研究科 学校教育 学科・課程・選修／専攻 3年

氏名：高田 篤希

派遣先大学名(国)：ニューファンドランドメモリアル大学(カナダ)

在籍身分：留学

派遣期間：8か月

渡航年月日：2017年9月2日

帰国年月日：2018年4月21日

○派遣先大学における授業等の履修状況

(履修した講義名, 講義の履修期間, 週当たりの講義時間, 修得単位数などを確認できる成績表(写)等の添付)

講義名	履修期間	週当たりの講義時間	単位数
The University Experience	9/3~12/16	3	
Intro to Linguistics	1/3~4/18	3	
The Wonder of Words	1/3~4/18	3	
Teach English Second Lang	1/3~4/18	3	

【以下について, 様式任意 1,000字程度】

○研究・学習概要及び今後の勉学計画

(受講した講義の内容, 留学したことを本学での卒業論文や将来に向けてどう活かしていくか等)

The University Experience では、より良い大学生活を送るためにすべきこととは何かを学びました。レポートの書き方、タイムスケジュールの立て方、資料の読み方、将来の仕事への適正、批判的思考など、大学生活を送るうえではもちろん、卒業後の長い人生において大切なことをこの授業で学びました。初めて受けた学部授業でしたが、大変充実していました。

Intro to Linguistics では、言語学全般を広く学びました。留学前にも言語学の導入系の授業を履修したことがありましたが、その授業で網羅されている領域がものすごく限られていたので、この授業を履修することにしました。この授業は言語学におけるほぼすべての領域を網羅しており、なおかつ日本で受けた言語学の授業よりも深い内容を扱っていたので、とてもためになりました。

The Wonder of Words では、英語の語彙について深く学びました。英語の語彙につ

いて発音、形、意味などの観点から分析することで、初見の語彙に出会ったときに意味を推測したり、効率よく語彙を覚えたりするヒントをつかみました。また、英語はどの言語よりもたくさんの語彙を持っていて、その 85%が他の言語から借りてきたものだということを知ったことをきっかけに、日本語にも英語から借りてきた語彙がたくさんあることに気づき、英語から借りてきた日本語、いわゆるカタカナ英語に興味を持つようになりました。その授業の最終課題であるレポートとプレゼンのテーマをそれに設定し、カタカナ英語について分析しました。調べてみるととても面白く、英語教育に生かせそうなこともたくさんあったので、カタカナ英語を卒業論文のテーマにしようと考えています。

Teach English Second Lang では、ESL の先生に必要な知識や能力について学びました。私は英語の教員を目指しているので、学ぶことはたくさんありました。特に第二言語習得論に基づいた教授法は今の日本の英語教育には新しいものだったので、この先の教育実習や教員生活で、この授業で学んだことを活かしたいと思います。

今後の勉強計画としては、TOEIC や英検の資格取得のための勉強を行うとともに、The All Rooms に通いながら英会話力を向上させるつもりです。留学を通して、どのようにすれば英語力が向上するか分かったので、そのノウハウを生かしながら日々学習に努めようと思います。

○生活面について

(現地の学生との交流, 寮・下宿, 食生活, 習慣の違い・マナーなど)

現地の学生とは主に Japanese Culture Club で交流しました。そのクラブでは、日本の文化や慣習に触れたり、折り紙やおはじきやかるたなどの体験をしたりすることができます。日本に興味のある学生が集まるので、現地の学生と仲良くなるのにうってつけの場所でした。そこで本当に仲良くなった友達とは定期的にポットラックパーティーを開催し、親交をより深めました。

下宿は大学のキャンパス内にある寮でしていました。私が下宿していた寮では、4人でリビング・キッチン・バス・トイレなどのスペースを共有し、それぞれ自分の個室がひとつ与えられていました。現地の学生と交流できて、なおかつ自分のプライベートな空間も確保されていて非常に快適でした。ただ、友達の話の話を聞いていると、ルームメイトとの習慣の違い(共有スペースを掃除しない、騒音がひどいなど)が原因で問題を抱えている人もいました。幸運にも私のルームメイトは気が遣える良い人たちだったので、快適な寮生活を送ることができました。

カナダでの食生活にはかなり満足していました。なぜかという、ほぼ毎日お米を食べることができていたからです。Amazon で炊飯器とお米を安く手に入れてすごく助かりました。カナダの食べ物は基本的に日本より高めですが、肉(特に牛肉)と冷凍野菜がかなり安かったので、それらを料理してご飯と一緒に食べていました。

○その他留学全般にわたる感想

メモリアル大学への留学を通して、いろいろなことを経験し、いろいろなことに気づき、学びました。そこで留学を通しての主な収穫について三つ述べようと思います。一つ目は、自分の考え方に幅ができたことです。メモリアルにいと、カナダ人はもちろんいろいろな国籍の人たちと交流する機会があります。そういう人たちと交流していると、何度も今まで自分の中にはなかった考え方や価値観に触れることができます。この経験を通して、今までの自分の考え方がかなり偏ったものであることに気づき、「こういう考え方もありだな」と、自分とは異なる他人の考え方に寛容になり、自分の考え方も少しずつ変わっていきました。この経験は留学でしかできない経験だと思います。

二つ目は、日本の良さを再確認することができたことです。留学をしていて、カナダの良さにたくさん気付きましたが、それと同時に、今まで当たり前だと思っていたことがカナダでは当たり前ではないことに気が付きました。例えば、日本の交通機関の利便性、サービスの質の高さ、日本食のすばらしさ、日本人の気遣いなどです。これらのものを得て今まで生活してきた自分にとって、カナダでの生活が慣れるまでは少し苦しかったこともありました。この経験を通して、今ではそういった当たり前なことに感謝できるようになりました。

三つ目は、英語に対する向き合い方が変わったことです。留学前は、自分の英語の話しなさにネガティブな感情を抱いており、失敗したり恥をかいたりするのが嫌で、英語へのモチベーションが上がらないことが多々ありました。しかし、留学後は、周りの人たちが私自身どれだけ英語をうまく話せるかなんてほぼ気にしておらず、それよりも私がどんな考えを持っていて、それを自分の言葉で伝えようとしているかの方が重要なんだということに気が付きました。それに気づいてからは、英語を話せるようになるにはとにかく慣れが必要で、文法的なミスはあまり気にしないでとにかく英語をたくさん話すことで、英語を話す力は少しずつ伸びていくのだと考えるようになりました。これに気づけたのは今後の英語学習にとってかなり大きかったです。留学前の私のような感情を抱いている人は周りにたくさんいると思うので、少しでも多くの人にこのことを伝えて、励ましてあげられたらなと思います。

○渡航費補助について

(本事業の渡航費補助は、秋田大学みらい創造基金という寄付金から支出されています。寄付をしてくださった方へのメッセージをお願いします)

お金を寄付してくださった方々、この度はありがとうございました。留学には莫大な費用がかかり、それを理由に留学をあきらめる人たちは少なくありません。私も同様に金銭的にかなり厳しかったのですが、みなさんの援助のおかげで留学を実現することができました。これからも留学を志す人たちへの応援をしていただけると嬉しい

(様式2)

です。本当にありがとうございました。



集合写真（グレンフェルキャンパス）



紅葉（グレンフェルキャンパス）



ジップライニングツアー